

国語科における「思考力・判断力・表現力」を高める効果的な取組

【宮代町教育委員会】

1 国語科における「思考力・判断力・表現力」

- 目的や場面に応じ、適切に話したり、聞いたり、話し合ったりすることができる能力
- 相手や目的、意図に応じ、筋道を立てて説得力のある文章を書くことができる能力
- 目的や意図に応じ、様々な文章を読み、内容を的確にとらえることができる能力
- 言語感覚を豊かにし、自分の考えや思いを適切に表現することができる能力

2 国語科における「授業改善」のための方策

視点1・・・「思考力・判断力・表現力など」の育成

- 教材の内容を分析し、習得した知識・技能を活用するための思考・判断・表現を伴う学習活動を取り入れる。
- 学習課題に対して自分で考え、まとめ、発表する場や時間を十分に確保するとともに、思考の過程を重視する。
- 根拠に基づいて文章を正しく読み取り、自分の考えをわかりやすくまとめられるように「書く活動」を工夫する。
- 小グループで話し合う活動の利点を生かし、お互いに自分の考えを深めたり、広げたりする。

視点2・・・「基礎的・基本的な知識・技能」の習得

- 漢字コンテスト（学期に1回）、授業冒頭の漢字テストを実施し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。
- 新聞記事やコラムに対する意見（100文字程度）を書かせる取組を継続することにより、語彙や知識を増やし、考える習慣をつける。

3 「思考力・判断力・表現力」をつけていくための具体的な方策

- 根拠となる表現を押さえながら、文章の内容について正しく読み取らせる。
- 文章の内容について自らの考えを整理し、筋道を立てて話せるようにさせる。
- 「基礎的・基本的な知識・技能」を活用する場を設け、自分の考えを整理し、目的に合った文章を明確に書けるようにする。
- 相手のことを尊重したグループでの話し合いを取り入れ、他者との意見交流（聞き合う・話し合う・学び合う）を通して自分の考えを深められるようにする。
- ワークシートやヒントカードを活用したり、学習形態（2人組、グループ、全体など）を工夫して、学習への関心・意欲を高めたり、個々の生徒への学習支援に役立てる。
- 「思考力・判断力・表現力など」を評価する場面をしばり、適切に評価し次の学習に生かす。

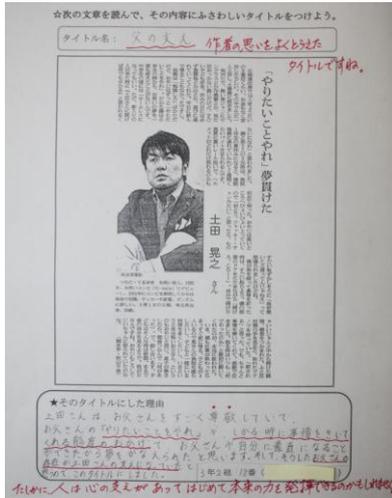
4 具体的な実践例

○3年：古典教材…グループで思考を深める学習

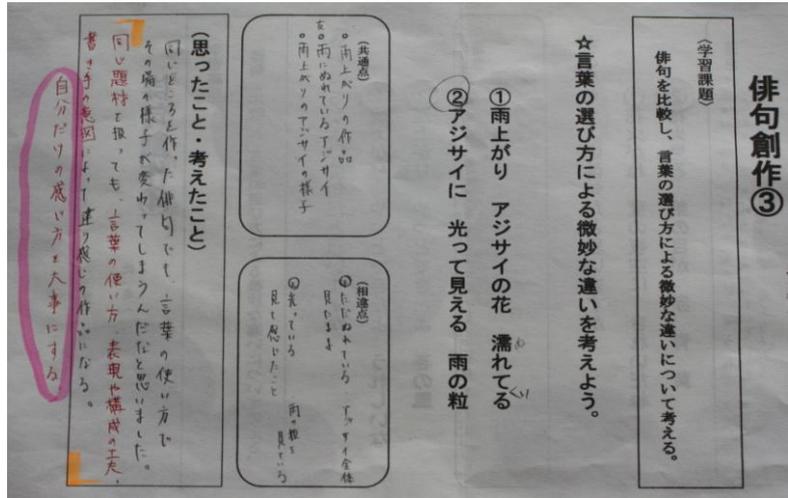
手がかりとなる言葉をもとに、「芭蕉の旅への思い」についての自分の考えをもち、グループ内で考えを交流し、様々な考えを知ると同時に、自分の考えを深める学習に取り組んだ。

○「思考力・判断力・表現力など」の基盤となる力を育てるための工夫

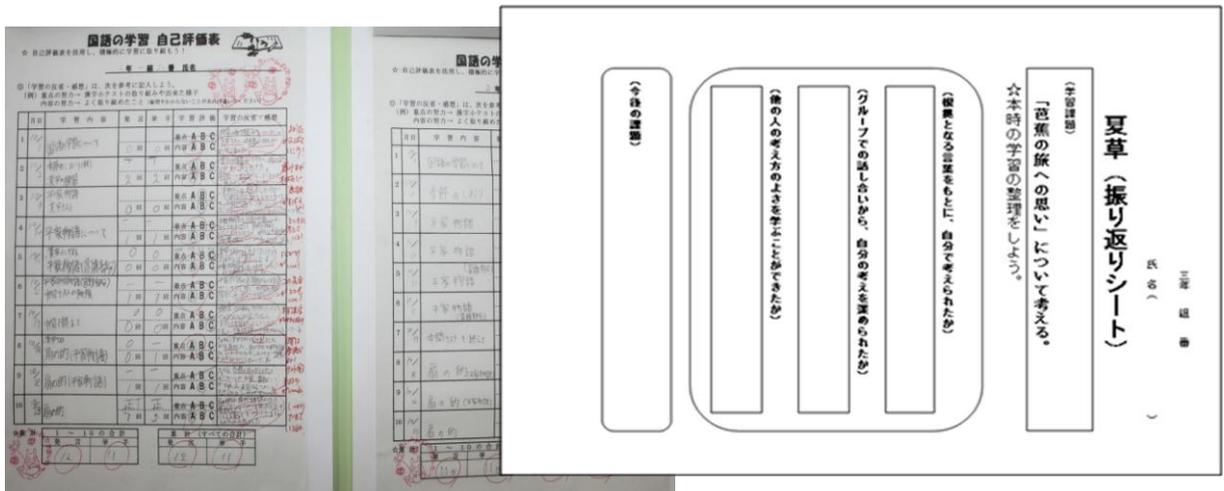
◆新聞のコラムを活用した学習



◆ワークシートを活用した学習活動



◆自己評価表、振り返りカードの工夫



5 成果と今後の課題

生徒の振り返りカードの中に、「授業の中に、手がかりとなる言葉をもとにして旅に対する芭蕉の思いを考えるとという課題があったが、根拠となる言葉を見つけながらあれこれと考えているうちに当時の旅のことや旅立つ前の芭蕉の心境が想像できて楽しかった。また、グループでの話し合いでは自分とは違う考えをいろいろと聞くことができ、とても参考になった。」という内容の感想を書いていた生徒がいた。また、ワークシートに記述された内容を読んでもみると、根拠となる言葉を押さえながら課題に対する自分の考えを自分の言葉で書いている生徒が多かった。「思考力・判断力・表現力など」を高める学習活動を取り入れた授業を重ねていく中で、生徒の学習意欲の高まりや思考の深まりを感じられるようになってきた。

今後も授業の中に課題を解決していくための思考・判断・表現を伴う学習活動を位置づけるとともに、単元を貫く言語活動を取り入れながら、学習に対する見通しや自分の課題を明確に持って授業に主体的に臨んでいけるように、個々の生徒に応じた手立てを工夫していきたい。